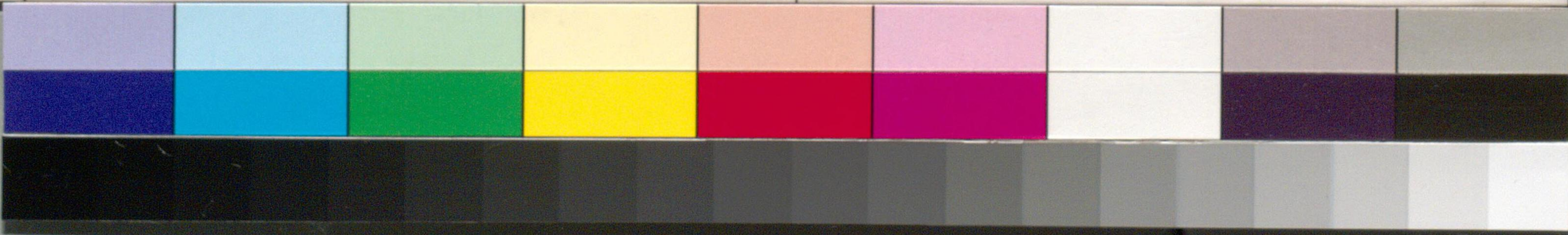
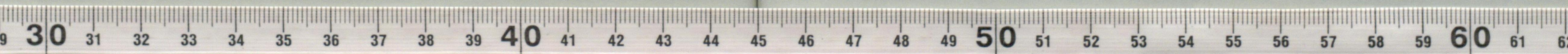


山縣有朋
憲
13

山縣有朋關係文書

常磐會選者二與了書
含雪老公和歌四首
船越男爵家所藏

山縣有朋
船越氏



會雪老公和歌四首

船越男爵家

交社

大正十五年七月十七日



17



225780

225781

山縣有朋公傳記編纂所

山縣有朋公傳言綴箋

山縣有朋公傳言綴箋



山縣有朋公傳言綴箋

山縣有朋公傳言綴箋

山縣有朋公傳言綴箋

所藏

社頭曉

山縣有朋公傳言綴箋

山縣有朋公傳言綴箋

山縣有朋公傳言綴箋

山縣有朋公傳言綴箋

明治甲午年

山縣有朋公傳記編纂所

丁未の年たちける日

われながらおとろかぬる阿た

かな

世にも稀なるよをむかえ

。 。

。

明治神宮祭に

。 。

。

安らげとあつありほさむあはれ

16

いっさ祭るは宮所

。 。

小金井に陽田堤に鞭風北

花すみれける若こふーは

山縣有朋公傳記編纂所

Handwritten text in vertical columns on the right page, including the characters "山縣有朋" and "傳記編纂資料".

64 止

3枚



我國鉄需要額及輸入額

常盤金選者之與之者

男魯益田孝氏藏



山縣有朋傳記編纂所

山縣有朋傳記編纂所

山縣有朋傳記編纂所

(常盤會の選者に与ふる書)

常盤會開會以來滿ニケ年ノ星霜ヲ經
過シ歌調語格又ハ古體ノ調々等ニ就
而ハ諸大家ノ常ニ胸襟ヲ開キ論議考
究シテ撰出セラレ明治調ノ歌風ヲ涵
養セシメタルニ勉メラレツハアルハ
斯道ノ為メ欣賀不能措然レトモ左ノ
要點ニ付而ハ諸先生ノ未タ一致方針
ヲ定ムルニ至ラザルハ深ク遺憾トス

ル而已ナラズ又本會ノ目的ヲ貫徹ス
 ル能ハズ故ニ出詠スル歌ノ格調ハ最
 早一定スベキ時機ナルベシ假令明治
 調トシテ社會一般ノ法則トナラザル
 モ諸大家ノ一致協力ニ依リテハ粗一
 定ノ様式ヲ作成スベキコトハ信ズ於
 此其疑團ノ一二ヲ左ニ開陳シ諸先生
 ノ判断ヲ乞ハントス

一 雜題ニ付テハ其季節ヲ讀入ルカ
 入レザルカ又ハ四時ノ季節ヲモ併

テ用ニルカ其方針ヲ一定スベシ

一 草花涼雨等ノ題詠ニ付テハ題意
 ノ實義ニ適從スルヲ主トスルハ當
 然ナレトモ昨年草花ノ題詠ニ付而
 ハ多小議論ノ末略一定セラレタリ
 ト雖モ亦涼雨ノ題意ニ付テ変更セ
 ラレタルヲ發見セリ則涼雨ノ題ノ
 如キハ夕立ノ題詠ヲ撰ビ草花ノ題
 ニ朝顔萩花等ヲ混用スルハ甚題意
 ノ明晰ナラサルヨリ門下生ヲシテ



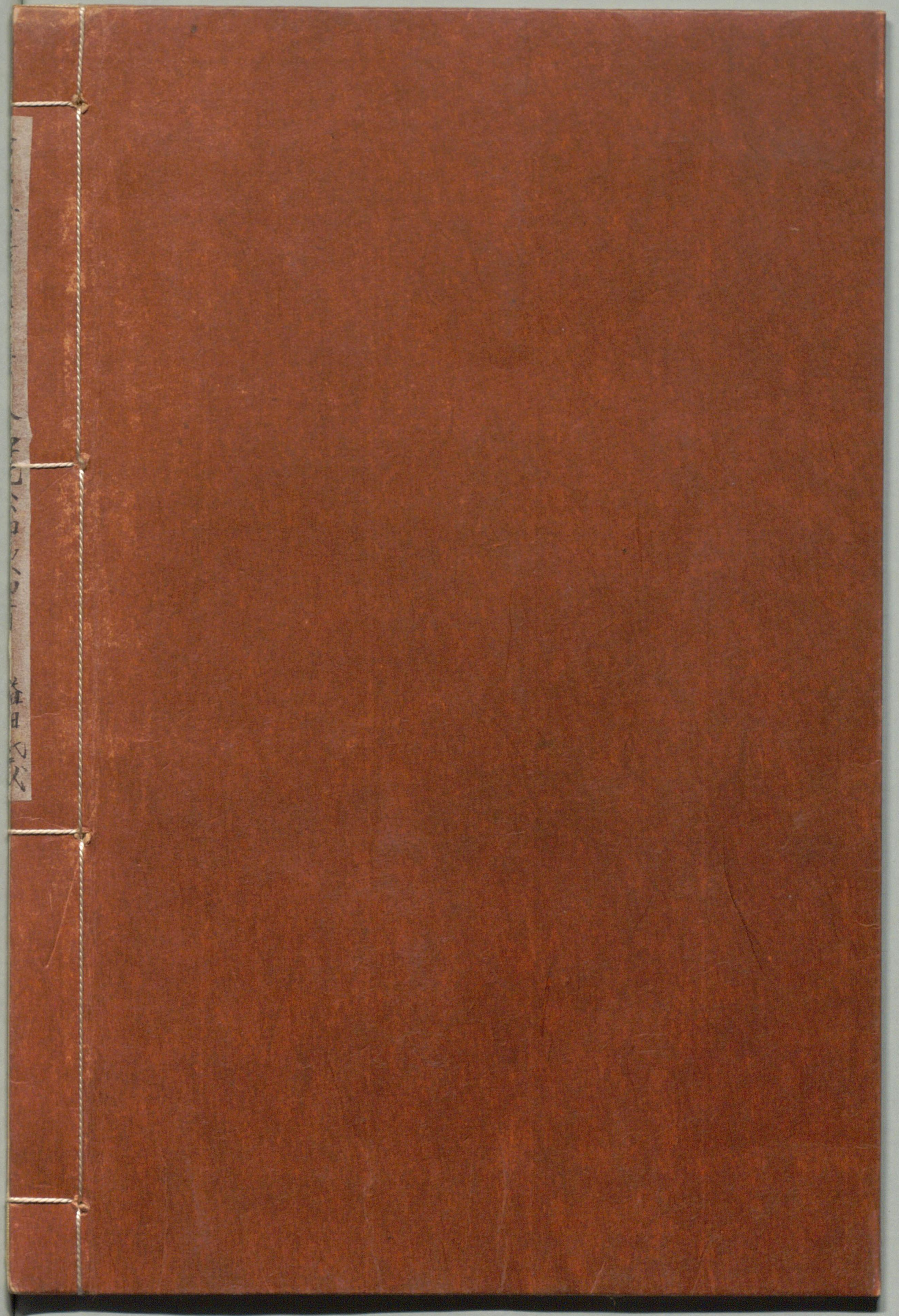
五里霧中ニ徘徊セシムルノ嫌ヒヨ
惹起セリ依テ今日ハ其方針ヲ明
セザル可ラザル時機ナルベシ
一歌ノ用語ト文章ノ用語トハ自ラ差
別アルベシ此等ノ語格及ヒテハ
ニ付テハ井上博士常ニ考究論談セ
ラル事ナレハ語格又ハ字義ノ廣
狹等ニ付或程度マデ研究論定シ孰
レノ方向ニ歟曙光ヲ看ムコトヲ望
ム

一 歌調ト意匠ニ注意シ歌ヲ詠スル
ハ勿論ノ事ナレ共餘リ理密ニ傾キ
詰屈聲牙ハ歌調ヲ滞滯セシメ優美
ナル歌風ノ三十一文字中其精神妙
味ヲ缺ハ甚タ遺憾トスル所也之ヲ
嘯吟シテ感慨ヲ生シ奮起ヲ為ス之
歌ヲ名歌秀乃逸下唱ヘ来レリ然レト
モ之ヲ撰定スルノ識見ニ於テ多少
異同ヲ生スルハ固ヨリ免レザ
ルベシ

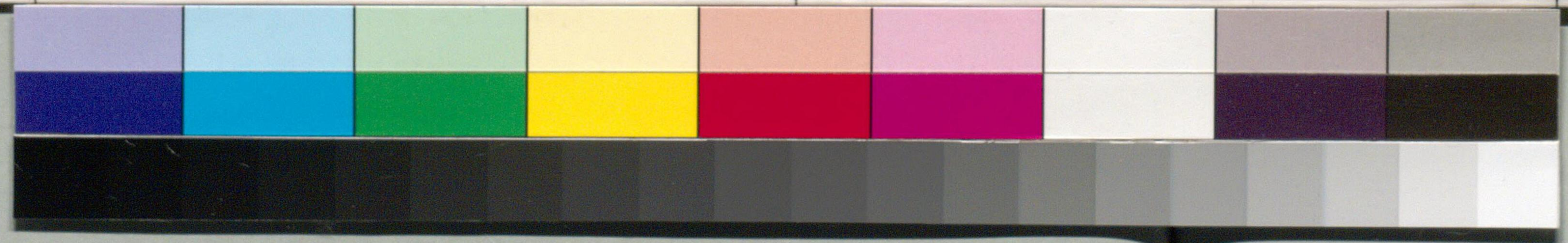
右ノ内末二項ハ一概ニ論定スベキハ
 又宍易ノ業ニ非ラスト雖モ略其方針
 ヲ一定シテ門下生ヲ誘導スルハ左マ
 デ困難ノ事ニアラザルベシ歌調意匠
 ニ注意撰出シテ將來倍難道ノ新歩ヲ
 圖ルハ其時機將ニ今日ニ在リト信ス
 諸先生以テ如何トナスヤ
 明治四十一年九月
 古稀菴朋
 頓首

井上
 鎌田
 大口
 佐々木
 諸先生坐下

張水
大鹽
井田
新井



山縣有朋伝記編纂資料(写本) 13



国立国会図書館 山縣有朋伝記編纂資料(写本) 13